奥田の家は郵便局で、それで、仲間で、
皆、奥田とこの郵便局に、
めいめい口座を持っていたが、
今日の為にと、
奥田が、めいめい、貯金してあったお金を、
全額引き出して、各自に渡している。

僕のは四千円と、少しだった。

大阪まで、列車に乗り込んだが、
旅という感じはしない。
だんだん、速度が高速になる。
窓の風が強い。
どんどん、強くなる。

八幡近くの、男山（おとこやま）を近くに、
だいぶ、川を隔てて、離れているが、
その男山を見つつ、
列車が大阪へ進行する時、
八幡の京阪電車の鉄橋が小さく見えた。

「彼女とも、しばし、お別れか」と、じっと見ていた。

母に手紙の切手と投函を出しなに頼んだが、
「手紙、彼女に届くだろうか。
　彼女、どう受け取るかなあ。」
と思いつつ、窓ぎわから、外の、走る風景を見る。
変化していく景色、それも、すばやく変わる景色、
僕は、じっと、これを見るのが好きだ。

116 何事も都合の良い方に解釈・・・・・・・・・・530

Candy
in the Heart
536

萩原良昭